

# 評議會幹部の醜態

日本主義勞農同志會は愈々ヤルゾ!!

十八日午後の爭議團本部に於ける流血事件に關しては、虚偽の報道をなせる新聞記事少なからず、特に「我が日本主義勞農同志會」に取つて遺憾に堪へざるものがある。東京の「朝日」「日日」新聞など何の意思あつてか、其の最も事實とは違つた捏造記事を掲げ、又「濱松新聞」の如きは當日評議會幹部の暴行を相手に戦つた一團の者を呼ぶに「反動團體」の名を以つてし而も之が我が日本主義勞農同志會員なるかに書いて居るが、その一團は警察及び市民の目撃に依つて知られる如く、全く「相愛會濱松本部」日鮮融合を目的として組織さるゝ鮮人の全國的大團々員六名であつたのだ。そしてその戦闘場面の真相も、これら諸新聞の記事とは全く違つて、例へば右六名の諸君が何等か武器を携帯した如く書いて居るけれども、實は全くの空拳であつたのだ。「棍棒六七本」を警察官が押収した云々は、明らかに新聞記者の虚報である。そして其亂闘の起りは、相愛會が評議會から同胞の一鮮人橋春吉なる者を退かして貰ふべく談判に行つたことにある。然るに六名に對して評議員は甚だ暴慢なる言動を弄し、殊に三田村と本澤は六名の諸君に特殊民扱ひを爲し、「何んだ朝鮮人め摘み出せ」と罵り本澤某と共に朴君其他に暴行を加へたに由來する。その結果六名は憤激し防禦戦が大亂闘となり、三田村、本澤はアヘコペに、亂打亂蹴され、鍋山、安島其他は脱兎の如く遁走し、遂に流血せしめらるゝの醜態を演出したのである、猶ほ茲に我等が警官其他の目撃者より聞くところによれば、評議會幹部として名高い三田村四郎は初めの暴慢にも似ず、「許して下さい、悪かつた、許して下さい」と悲鳴を擧げ、手を合せて許しを求めたと云ふ。又新聞記事では三田村の妻房子が「夫を護つた」如く書いてあるが、護つた處か彼女は四郎が血に染まつて大地に叩き伏せられて居るのを見棄てゝ逃走したのである。

事實の真相要領は右の如くである。我が日本主義勞農同志會は先日演説會以外、未だ曾つて何等の直接行動には出て居ない。吾等が出るのは之からである。濱松市民諸君並びに、取締當局諸君、吾等を反動團と云はゞ云へ、吾等は彼の赤衛主義を奉ずる醜類、コミの如き國賊ども評議會を撲滅すべく、愈々積極的行動に出る事を記憶せられたい。

附記 猶ほ相愛會は右評議會の挑戦暴行に對して直に濱松署に告訴した  
この事である。

五月二十日

日本主義勞農同志會